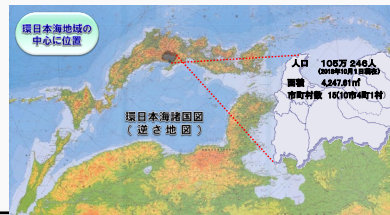


1. 地域の特徴

富山県は、南北にのる日本列島の中心、本州の中央北部に位置。三方を急峻な山々に囲まれ、深い湾を抱くように平野が広がっており、富山市を中心に半径50kmというまとまりのよい地形が特徴。

2. 応募のきっかけ



水と緑に恵まれた豊かな自然環境

- 標高3,000m級の立山連峰から水深1,000mの富山湾まで、**高低差4,000m**のダイナミックな地形
- 植生自然比率本州一**の水と緑に恵まれた豊かな自然環境

環日本海の中央に位置する地理的条件

- 対岸諸国との交流の積み重ねを活かし、**環日本海・アジア交流の拠点**として活発な取組みを展開

- ・**G7 富山環境大臣会合 (2016年)**
富山物質循環フレームワークの採択
- ・**「世界で最も美しい湾クラブ」世界総会 (2019年10月)** の開催

土石流や洪水、公害とのたたかい

- 多くの急流河川で**土石流や洪水**などが頻発
…明治時代から続く**砂防・治水工事**
- 官民が連携して**イタイイタイ病を克服**してきた歴史
(汚染農地の復元、流域住民の健康調査)

全国に先駆けた環境施策の推進

- ・農業用水等を活用した小水力発電の整備
- ・**県民参加の森づくりの推進 (水と緑の森づくり税の導入)**
- ・**全国初の県単位のレジ袋無料配布の廃止**
- ・**富山型リサイクルの推進 (2010年10月～)**
- ・とやまエコ・ストア制度の創設

3. 取組の内容と成果

『環日本海地域をリードする「環境・エネルギー先端県とやま」』



- ① 世界に誇れる雄大な「立山黒部」や「世界で最も美しい富山湾」など美しい山と海を有し、豊かな水の恵みを活かして持続的な経済発展を実現する県
- ② 「富山物質循環フレームワーク」の実現に向けた「とやまモデル」が確立した県



< 経済 >

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

8 働きがいも
経済成長も

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう

< 環境 >

6 安全な水とトイレ
を世界中に

14 海の豊かさを
守ろう

15 陸の豊かさも
守ろう

< 社会 >

12 つくる責任
つかう責任

17 パートナーシップで
目標を達成しよう

- 「立山黒部」の世界ブランド化
- 国際的ブランド「世界で最も美しい富山湾」の活用
- 水産業の振興と富山湾のさかなのブランド力向上
- カーボンニュートラルの実現に向けた再生可能エネルギーの導入、新たなエネルギーの利用に向けた開発の促進

- 立山黒部をはじめとする雄大で美しく豊かな自然環境の保全
- 環日本海地域の環境保全への国際貢献
- 清らかな水資源の保全と活用
- 水と緑の森づくり

- 脱炭素社会・循環型社会づくりの推進
- 「富山物質循環フレームワーク」の実現に向けた「とやまモデル」の確立

3. 取組の内容と成果

・「富山物質循環フレームワーク」の実現に向けた「とやまモデル」の確立

全県的な食品ロス等削減運動（とやま食ロスゼロ作戦）の展開により、食品ロス削減のための取組みを行っている人の割合が2020年81.3%→2022年89.7%と上昇している。

・立山黒部をはじめとする雄大で美しく豊かな自然環境の保全

水質に係る環境基準は100%を達成しているが、引き続き事業者による自主的な環境保全活動、若い世代の理解や参加を促すための体験会・観察会等の開催等、県民総参加による水環境保全活動の促進が必要

・水と緑の森づくり

里山林の整備面積については、県民協働による里山整備の推進により、2020年 3,603ha→2022年3,960haに上昇した。

・富山県SDGs宣言の募集（令和3年7月～）、富山県SDGs連携推進フォーラム及びワークショップの開催

「富山県SDGs宣言」の募集を実施し、県民や県内企業等におけるSDGs推進を促進。

・富山県SDGs推進連絡協議会の開催

市町村や経済界、有識者、NPOなど多様なステークホルダーとの連携を一層強化し、SDGs達成に向けた取組みを推進するため開催



フードドライブの実践行動



SDGs連携推進フォーラム



SDGs連携推進ワークショップ

4. 選定されてよかったこと

SDGs未来都市に選定されたことを契機として、SDGsを通じた企業等との連携が進んでいる。

・「富山県SDGs宣言」の開始

県SDGs専用ウェブサイトにおいて、SDGs宣言を掲載し、各企業等のSDGsに関する取組みや目標を紹介している。

(令和5年10月末までの応募分427企業・団体を掲載)



・富山県SDGs推進連絡協議会

・包括連携協定

民間企業と様々な分野で包括的に連携し、官民相互のノウハウ等を活かした協働の取組みを進め、県民サービスの向上と地域社会の活性化に努めている。

(令和5年10月末時点で23の民間企業と包括連携協定を締結、令和元年以降13社と締結し様々な事業を展開) 引き続き、包括連携先である民間企業と連携し、県内企業でのSDGsの取組の推進や、セミナーの開催・講師派遣を通じてSDGs取組企業の増大を図る。

5. 困難やつまづきなど苦労したこと及びそれをどのように克服したか

SDGsの認知度（令和3年度県政世論調査）

- ・「言葉も意味も知っている」が44.5%（前年比28.5%増）、「言葉は知っているが、意味は知らない」が27.5%（前年比8.2%増）
- ・「SDGs」という言葉を知っている人（「言葉も意味も知っている」と「言葉は知っているが、意味は知らない」を合算したもの）が72.0%となっている。（前年比36.7%増）

出前講座等の実施を通じ、県民のSDGsの認知度は高まっている。

6. 今後の展開

今後の本県が目指す「SDGs 未来都市」の姿

～本県発展の原点である「水」に焦点を当てたSDGs未来都市等提案～

2030年においても「美しい山と海を有し、豊かな水の恵みを活かして持続的な経済発展を実現する県」

・引き続き、「山と森から富山湾へ 清らかな水の循環の創造」を基本理念とした取組みを進めることにより、課題解決に向けた自律的な好循環を創り出し、その成果を内外に発信することで「環境・エネルギーフロントランナー」として地方創生・地域活性化に貢献することを目指す。

・富山県SDGs宣言を行う企業・団体等の掘り起こしや宣言を行った企業等の取組みの優良事例等を発信。企業等の連携による取組みを促進し、県内のSDGsの更なる推進を図る。

7. 他地域への展開等

・全国初の県内全域でのレジ袋の無料配布廃止の取組み →国によるレジ袋有料化に繋がる

・「G7 富山環境大臣会合」(2016年)における「富山物質循環フレームワーク」の採択
→県民、事業者、関係団体、行政などが一丸となって、食品ロス・食品廃棄物の削減に向けた県民総参加の運動を展開

・2020年3月には関係団体と共同で、国に先駆け、「とやまゼロカーボン推進宣言」を行い、2050年カーボンニュートラル実現に向けて温室効果ガスの排出削減に取り組んでいる。

今後も県民、企業やNPO、国内の自治体等のステークホルダーと連携を図りながら、SDGsの取組みを推進したい。